

2016年4月12日

## 成田空港ターミナル連絡バスで ハンズフリー翻訳タブレットの実証実験を行います！

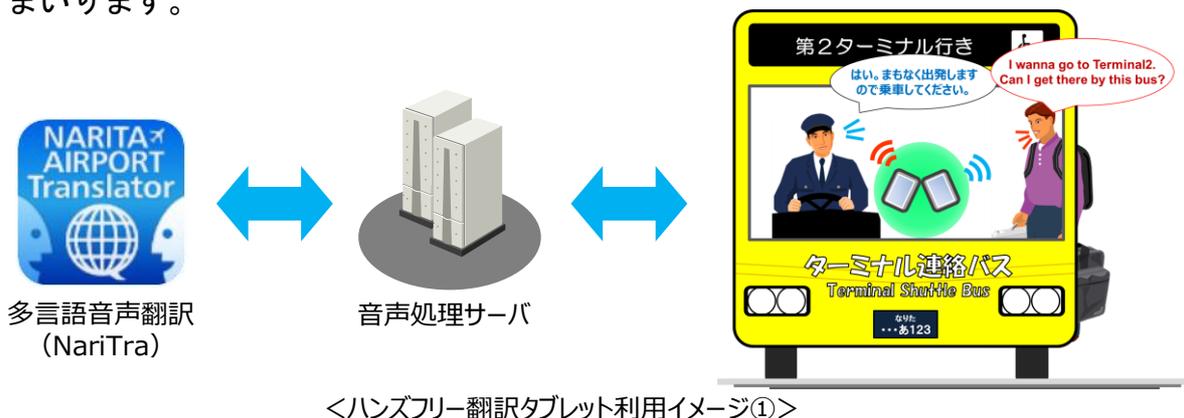
～ バス車内でのお客様に向けたご案内や対話を途切れることなく自動で翻訳 ～

成田国際空港株式会社は、2016年4月19日から4月27日まで、音声翻訳技術を活用したハンズフリー翻訳タブレットの実証実験を実施します。

今回の実証実験は、ターミナル間を往復する無料連絡バスの車内において、タブレットおよび弊社アプリ「NariTra」の音声翻訳エンジンを活用し、乗務員が外国人のお客様に対して、音声と画面で極めてスムーズに多言語（英語・中国語・韓国語）でご案内を行うことを目的とします。

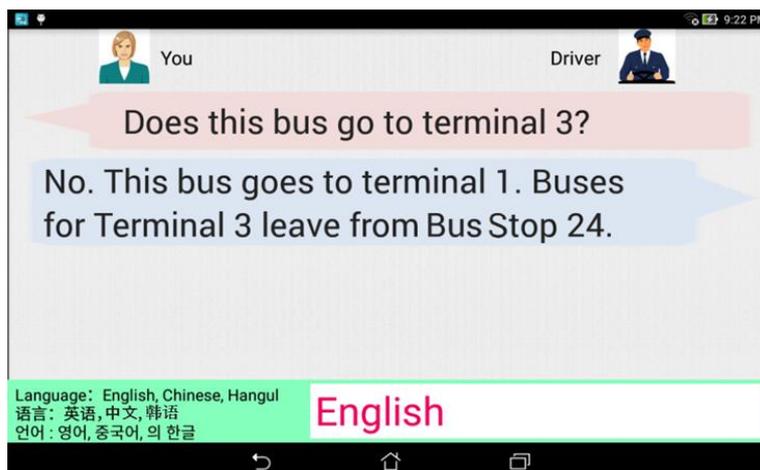
その最大の特徴は、バス乗務員とお客様のいずれも、発話の開始および終了時に一切の操作をする必要がない点です。これを実現させるため、雑音除去ならびに発話の区切りを自動認識する技術が活用されています。

成田国際空港株式会社では、機能やサービス時の実用性検証を行い、今後本格導入を進めてまいります。

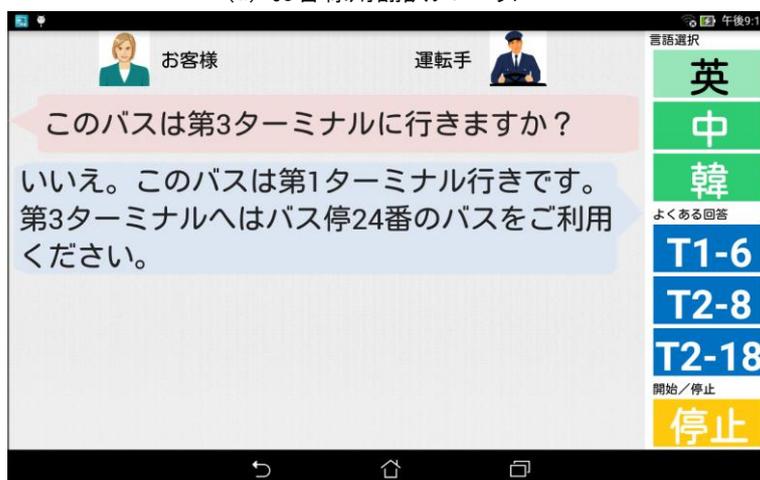


### <実証実験概要>

1. 実施期間： 2016年4月19日（火）～2016年4月27日（水）
2. 運用時間： 10:00～17:00（ご利用は停車中に限ります）
3. 対象エリア： 成田国際空港内 ターミナル連絡バス車内（連絡バス1台に対して実験的に搭載します）
4. 対応言語： 英語、中国語、韓国語
5. 機能概要： お客様の質問を日本語に翻訳して乗務員側に伝え、乗務員の回答については、英語、中国語、韓国語に適宜翻訳して案内を行う。よく聞かれる質問については、マイクに発話することなく、事前登録した内容をボタンを押して呼び出すことで案内することが可能。



(a) お客様用翻訳タブレット



(b) 乗務員用翻訳タブレット

<ハンズフリー翻訳タブレット利用イメージ②表示画面>

### <活用する技術について>

成田空港では、多言語音声翻訳アプリ「NariTra」を提供していますが（音声翻訳システムは株式会社フィートより提供を受けて2011年12月に公開）、今般、株式会社日立製作所および株式会社日立超L S Iシステムズと共に、空港内でのお客様とのさまざまな対応をよりスムーズに行うために有効な音声処理技術(\*)と「NariTra」の多言語音声翻訳技術とを組み合わせたハンズフリー翻訳タブレットの実証実験を実施します。

今回適用する音声処理技術は、複数のマイクロホンからの音声をもとに雑音除去ならびに発話と発話の区切りを自動認識する技術です。この技術により、騒音環境の中でも音声認識を可能とし、発話の区切りを自動認識することで、発話毎のボタン操作が不要となります。

例えば、両手に荷物を持ったお客様が乗務員との間で、通常の会話を行う感覚で対話ができるほか、バス乗車前のお客様がバス乗務員に話かけるような状況であっても、的確かつスムーズなご案内が可能となります。

本技術に関する詳細につきましては、株式会社日立製作所のプレスリリース（以下）をご覧ください。

(\*) <http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2015/11/1117.html>